

VIDEO REVIEW

新しい体位変換の テクニック

〔評者〕小林峰子

順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院看護婦

斬新なアプローチで、
理に適った技術を
身につける



新しい体位変換のテクニック
企画/川島どり、監修・指導/紙屋克子
全3巻セット(VHSのみ、テキスト付)
収録時間65分(1巻約20分)
定価88,000円(税込)
中央法規出版
TEL.03-3379-3861

このビデオは、「指1本でも体位変換ができる……」というキャッチフレーズで、看護界に話題を投げかけた、体位変換のテクニックを紹介している。

札幌麻生脳神経外科病院は、紙屋看護部長を中心に、「ナーシング・バイオメカニクス」と名付けた体位変換の一連の技術を生み出した。すでに看護系雑誌にしばしば発表されているのでご存知の方も多いかもしれない。

この「ナーシング・バイオメカニクス」とは、生理学、解剖学、力学、心理学、発達理論などの知識をフルに活用した、患者の生活行為を援助する技術である。人間の生活行為の基本となる「自然な動き」に着目し、その動きを生かした合理性のある方法で、自然の法則に逆らわずに介助することに特徴がある。

人間の「自然な動き」を図で示し、それに重ねて援助技術を実際にデモンストレーションして解説しているのので、大変理解しやすい。

もう1つの特徴は、患者の半介助を要する時期から自立へ、あるいは急性期から在宅までのプロセスを1つの流れとして捉えている点である。したがって、急性期患者を対象とした病院内

看護から、在宅看護にまで役立つ幅広い内容となっている。

ビデオは3部構成となっていて、基礎編ともいえる第1部「自然な動きを知ろう」では、立ち上がり動作や起き上がり動作を分析し、人間の「自然な動き」を利用した援助技術とはどのようなものであるかが紹介されている。実践編の第2部「基本的体位変換」では、仰臥位から側臥位へ、腹臥位から仰臥位へ、水平移動、一連の動作で水平移動から側臥位へ、などの技術が反復して解説されている。応用編の第3部「応用的体位変換」は、枕元への引き上げ、ふとんの上での各種介助、ベッドから車椅子、車椅子からベッドへの移動、車椅子からズリ落ちた患者の引き上げ、片麻痺患者の横倒れ防止、排泄介助や救助方法など、豊富なバリエーションが紹介されている。

現在、私たちの脳神経外科病棟では、自力で動けない患者が多いため、生活行為援助技術の中でも体位変換の技術は必要不可欠である。

このビデオを見て、特に新鮮に映った技術を2、3例あげてみよう。1つは患者を座位にする時に、テコの原理を使いながら、患者の頭が自然に描くカ

ーブを利用して起き上がらせる方法だった。また、ベッドの下方に下がった患者を、ベクトルの法則を使って、対角線の方に引き上げる方法は、理に適っていて納得させられる。また片麻痺患者の横倒れ防止のために、安楽枕などを麻痺側のみではなく、両側に入れることで、支持面積を広くする方法は、即実践で活用している。

これからは、このビデオを参考にし、自分たちの使っている体位変換の技術が、患者と介助者の双方にとって、安全で安楽を考慮したものであるかを再点検していきたい。

経験豊かな看護婦は、普段使っているやりやすいと思う動作や援助方法が、実は原理、法則に基づいた確かなテクニックだったことを確認できるだろう。また新人の看護婦は、学校で学んだ技術と比較してみても、相違点やその理由を実践のなかで明確にしていければよいと思う。

最後にこのビデオから学んだもう1つの点は、「実践の中でよりよい技術を考案しようとする姿勢」である。見習っていききたい。

読者の職場でも、このビデオを活用されることをぜひお勧めしたい。